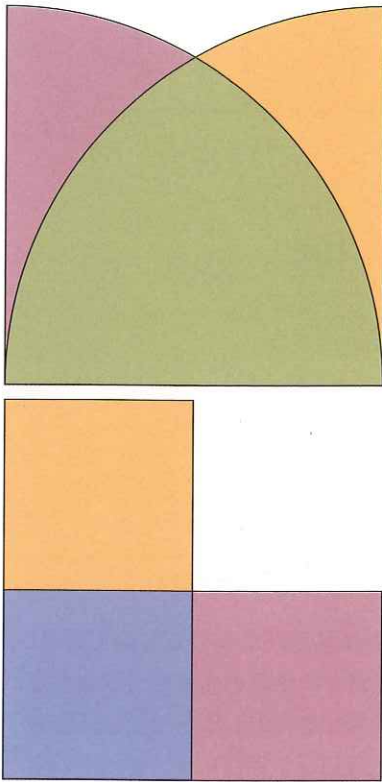


学習院大学史料館

ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of HistoryMuseum Letter
No.20

発行日 ● 平成24年(2012)9月10日

もくじ

ごあいさつ……1

「近代日本の学びの風景 ―学校文化の源流―」展の開催にあたって……2-3

Information……4

- ・「近代日本の学びの風景 ―学校文化の源流―」展のご案内
- ・第69回学習院大学史料館講座のお知らせ

1. ごあいさつ

学習院大学史料館では、10月1日から「近代日本の学びの風景―学校文化の源流―」展を開催いたします。次年度、文学部教育学科が発足(認可申請中)することを記念し、新学科開設準備室と共催で行うものです。

展覧会では初等教育に関わる展示が一つの中心となりますが、初等教育、つまり小学校といえば、誰しも思い出すのはランドセルでしょう。小学生のトレードマークのようなあの独特の通学かばんは、明治期に学習院初等学科において誕生したといわれます。両手が自由になる上、重さが両肩に均等にかかるので、肩掛けや手持ちのかばんよりも「子供に優しい」といえそうです。ただ、今日の合成皮革製と違って本革製の昔のランドセルは相当に重かったはずで、さらに、6年間使うため、1年生には大きすぎ、6年生には小さすぎるといった問題が起こりがちだという事情は、今も変わらないかもしれません。1年生から6年生まで一心身ともに大きく成長し変化する7歳から12歳まで――が同じランドセルを使うことから生じる問題は、小学校教育の難しさを象徴しているように思われます。小学校教員を特別に養成する教育学科が必要である理由は、まさにその点にあるのでしょうか。

教育の場で視覚的な教材が非常に有効であることは特に説明を要しないと思います。本展で取り上げる明治・大正期の教育においても、模型や標本や掛図など、教科書の文字情報を具体的な形で見せることのできる教材が盛んに用いられました。手で触れることのできる(多くの場合、実際に触ることは厳禁だったとしても)こうした教材は、今日のデジタル画像よりもはるかに強いインパクトを持ったかもしれません。これら多様な教材は、明治・大正期の初等教育の充実ぶりに改めて気づかせてくれます。もっとも、日本全国どこの小学校にもこのような教材が備えられていたかどうか、それは疑問です。

本展開催にも、いつもながら多くの方々のお力添えをいただいています。特に、小学校関係の展示品につきましては、学習院初等科の多大なご協力を得ております。また、本展のもう一つの中心となる『校友会雑誌』に関しては、共催者である教育学科開設準備室を通じて、「学校文化史研究会」の皆様のご協力をいただきました。記して御礼申し上げます。

(館長 高橋裕子)



① 学習院ランドセル 学習院初等科蔵